

# 東京都教師養成塾生の育成について

～本来求められる東京都教師養成塾生の資質・能力と指導の在り方～

明星大学教育学部教育学科 特任教授 中 澤 正 人

## Training of Tokyo Teacher Training School Students

Originally required qualities and  
abilities of Tokyo teacher training school students and the way of teaching

Masato NAKAZAWA

### 抄録

東京都教育委員会は、令和元年の東京都教師養成塾に関する大学との検討において、これまで、年度始め4月からの東京都教師養成塾生の入塾を、令和2年から11月の入塾とする旨を提示した。これは、これまでの実績を踏まえ、課題への対応を図るためと説明している。確かに、入塾者数の減少や、入塾生の資質の低下化、中途退塾の増加等、東京都教師養成塾の本来の目的に入塾の段階から沿っていない塾生の状況が見られる。そこで、入塾時期が改訂された年度に、私自身が東京都教師養成塾生の育成担当となったことから、東京都教師養成塾に対する、対応や塾生の指導の在り方についてまとめたいと考えた。

キーワード：東京都教師養成塾生の資質・能力、入塾生の採用、塾生への指導

### ○東京都教師養成塾と養成塾生の育成について

#### 1. 東京都教師養成塾の目的と目指す教師像

東京都教師養成塾の紹介や案内等には、東京都教師養成塾の目的や、養成塾における研修等を通して育てたい目指す教師像について、東京都教師養成塾募集案内には次のように書かれている。

##### (1) 目 的

###### 【小学校コース】

社会の変化や子供・保護者の願いを的確に捉えられるよう、豊かな人間性と実践的な指導力を兼ね備え、将来、指導的役割を果たせる教師となれるように、学生の段階から養成する。

###### 【特別支援学校コース】

障害のある児童・生徒の教育的ニーズや、障害の重度・重複化や多様性に対応できるよう、豊かな人間性と実践的な指導力を兼ね備え、将来、指導的役割を果たせる教師となれるように、学生の段階から養成する。

##### (2) 目指す教師像

- 社会の変化や子供・保護者の願いを的確に捉え、実践的な指導力や企画力を高める教師
- 幅広い教養を身に付け、総合的な見地から課題解決にあたり、学校教育を創造する教師
- 地域や社会貢献の活動に取り組み、自らの視野を広げ、子供に夢や感動を与え、将来への展望を切り拓く教師
- 将来の教育管理職候補者につながるような、学び続ける強い意志のある教師

これらのことから、東京都教師養成塾の目的は、次に示すような教師を育成することであると考えられる。

- ①新規採用教員であっても、実践的な指導力や企画力が兼ね備わっているようにすること。
- ②職場においてリーダーシップをとって学び続ける姿勢を持ち、働きかけていくこと。
- ③地域や社会に進んで働きかけ、学校との連携や社会貢献をしようとする事。
- ④将来は教育管理職候補者になるような、キャリアプランをもつこと。

である。教師になってからでなく、教師を目指そうとする段階から、東京都が求める教師の育成を図ろうということである。

### (3) 養成塾生の育成に対する問題について

東京都教師養成塾の目指す教師像が①～④であるとする、いくつかの問題が見えてくる。求められる教師を育てるには、こうした教師になる資質・能力を備えた学生を塾生とすること、また、資質・能力を備えた学生に、単に教師になるために必要とされる知識や技能を身に付けさせればよいというだけではないこと、そして、教師になった後のフォローの必要性があることなどである。

その他の問題として、養成期間が令和2年度から11月の入塾、翌年度9月修了となったことである。東京都教育委員会は、養成塾生募集説明会においてその理由として、

- ①大学3年生の早い段階から連携大学及び教師養成指定校と連携して教員養成を行う。
- ②教師養成指定校において、卒業、入学式に関係する教育活動を実習を通して学ばせる。
- ③大学3年生と4年生の期間に行う特別教育実習の充実を図り、一層、質の高い新規採用教員となる人材を育成する。

としている。9月修了となったことで問題だと考えられるのは、

- ①大学3年生になったばかりの学生に、入塾に必要とされる知識が身に付いているか。
- ②これまで、年間を通して固定した学級での指定校研修が、年度が変わり、研修する学級が変わること、児童・生徒との信頼関係づくり等に支障は生じないのか。
- ③9月に修了することで、指定校との信頼関係づくりが継続できるのか。

等である。

そこで私は、大学の教師養成塾生の研修担当として、実際の指導や支援を行う中で、次の様にこれまで掲げた課題への対応を図った。

## 2. 教師養成塾生への指導過程

### 入塾希望者の選定について

#### ①入塾出願へのスケジュール

令和3年度の東京都教師養成塾を担当する東京都研修センターの入塾スケジュールは次の様である。

6月14日(月)	出願書類提出締切
7月11日(日)	入塾者選抜(第一次選考)
8月23日(月)	一次選抜の合格発表
9月19日(日)	入塾者選抜(第二次選考 第一次選抜合格者のみ)
10月8日(金)	二次選抜の合格発表
10月14日(木)	入塾手続き開始

このスケジュールに合わせて、本学での入塾スケジュールは、次の様に実施された。

5月13日(木)	入塾希望者対象学内説明会開催の広報
5月13日(木)～18日(火)	入塾希望者対象学内説明会申し込み期間
5月21日(金)	入塾希望者対象学内説明会
5月21日(金)～26日(水)	学内選拔出願の申し込み期間

\* 来年度の申込者数は0人のため、予定日として掲載

5月27日(木)	学内選抜一次選考
----------	----------

5月28日(金)	一次選考合格発表
6月	学内選抜二次選考(受験者無しのため実施せず)
6月1日(火)～4日(金)	出願書類作成期間
6月7日(月)	出願書類提出期限(学生 ⇒ 教職事務センター)
6月10日(木)	出願書類提出(教職事務センター ⇒ 養成塾)

## ②入塾者選抜のポイント

①の入塾出願スケジュールにおいて、教師になる資質・能力を備えた学生を選抜するポイントは凡そ次の様であると考えられる。

## ○入塾説明会におけるポイント

### 1. 養成塾への誤解を解く

(1) 採用試験が免除されるという誤解(採用試験の勉強の必要がない)

- 面接試験が課せられる(採用試験中)
- 特別実習校の校長による、評価が重視される  
(校長は来年度の新規採用として戦力となるかを考え、評価する)

(2) 早く採用が決まるので、学生生活に余裕があるという誤解

- 毎週1回、40日にわたる実習校での研修がある
- 年間3回のおよそ1週間にわたる連続実習がある
- 毎月研究授業があり、東京都研修センター、大学から教授が来訪し、指導がある
- 年間50回程度のオンラインによる外国語指導の研修がある(必修)
- 東京都研修センターで年間20回程度の教科、教職に研修がある(毎土曜日)
- 無料ではなく、年間187,000円が個人負担となる
- 採用の決定は、一般の採用試験者と同時期である

### 2. 東京都教育委員会が求める養成塾卒業教師の資質・能力を明確化し伝える。

(1) 養成塾の目指す教師像(東京都教師養成塾募集案内から)

- 実践的な指導力、企画力を高める教師
- 総合的な見地から課題解決にあたり、学校教育を創造する教師(若手のリーダー)
- 地域や社会貢献の活動に取り組み、子供の将来への展望を切り拓く教師
- 将来の管理職候補者につながる、学び続ける強い意志のある教師

### 3. 自身を振り返らせ、年間を通して受講できるかを確認させる。

- 教師になる覚悟はできているのか
- 年間を通して受講できるのか
- 既にある程度の教師としての資質・能力を備えているか
- 自身の将来設計が明確になっているか

### 4. 絶対に守らなければならないことについて明確に伝える。

- 途中でやめてはいけないこと(試してみるはない)
- 研修で課題提出日は厳守すること
- 欠席はやむをえない事情の時のみとすること

そもそも、入塾は個人としての応募ではない、大学が推薦する代表者である。やってはいけないこと

をした場合は、個人ではなく、大学全体のペナルティーとなることや、受講が修了出来ない場合、改めて採用試験を受けてもその実績は残ること等、について伝えておく必要がある。

## ○選抜の際のポイント

### 1. 選抜方法

#### (1) 一次審査

出願書類審査、学内成績審査、小論文課題試験

#### (2) 二次審査

個人面接試験(2名の教員により各15分程度)

### 2. 合格ラインを厳格化する

- 東京都が求めている教師としての知識を備えているかを見極めるため、筆記試験の内容について、教員採用試験並とし、合格ラインも大学推薦者並みとする。
- 面接試験においては、東京都が求めている教師としての資質・能力を備えているかについて、養成塾が求める教師像に沿って質問し、見極める。
- 特別教育実習については、年間3回の連続した実習校での教育実習がある。その実習に対応できる環境にあること。

## ○令和2年11月入塾生について

- 令和2年の入塾生については、学生1名が入塾を希望し、令和2年5月18日に学内選考を実施し、合格した。東京都研修センターにおける選考では、7月12日に第一次選考、9月20日に第二次選考が実施され、10月13日に合格発表があり、この学生は、合格し、東京都教師養成塾への入塾となった。

### 1. 入塾選考までの指導について

- 指導については、学内選考合格後に実施した。昨年度までの入塾選考の状況把握を基に、特に論作指導を中心に3回実施した。課題については、「東京都の教育ビジョンを基に、このことが求められている背景と、自身の考え、また、教育ビジョンの実現のために養成塾でどのように学んでいくか。」等についてとし、1000字程度の論作指導を行った。
- 専門教養については、近年の傾向として、東京都教員採用試験と同じものが出題されることから、東京都の採用試験の過去問題を中心に勉強しておくよう助言した。

### 2. 入塾決定から実習開始までの指導について

- 塾生には、特別教育実習の担当である私の今後のかかわり方と、実習校への挨拶の仕方について指導・助言した。

## ○東京都教師養成塾生への指導・支援

養成塾生への指導については大きくは次の3つに分かれる。

(1) 学内における特別教育実習の指導

(2) 実習校における授業研究での指導・助言

(3) 養成塾生のカウンセリングも含めた対面による相談や指導



## 1. 学内における特別教育実習の指導

- ・養成塾生は1名のため、自身が担当する初等教育実習の授業に組み込む形となった。初等教育実習の指導を通して学級経営や児童理解、具体的な授業方法等について指導してきた。

## 2. 実習校における授業研究での指導・助言

- ・特別教育実習実施校 練馬区立K小学校
- ・実習校での授業研究による指導・助言については次の通りである。

### (1) 実習校訪問について

実習校訪問については、表1のように実施した。

表1

回	期 日	訪 問 内 容
①	12月7日	学校訪問と管理職との挨拶・打合せ
②	1月21日	授業研究 1年生算数「数と計算 加法・減法」
③	2月18日	授業研究 1年生道徳「あいさつをきちんと」
④	3月11日	授業研究 1年生算数「数の構成と表し方」
⑤	4月22日	授業研究 4年生国語「漢字の組み立て」
⑥	5月27日	授業研究 4年生理科「電池のはたらき」
⑦	6月24日	授業研究 5年生理科「生物のつながり めだかの誕生」
⑧	7月15日	授業研究 5年生国語「読書感想文の書き方を知ろう」

(毎木曜日)

### (2) 授業後の協議会での配慮事項や授業を通して感じたこと

- ・指導・助言については、児童とのかかわり方、発問の適性と適時制、45分間の時間配分等について述べた。また、研究協議では、始めに指導・助言を求められたため、発言時間についても配慮した。
- ・授業については、回数を重ねるごとに落ち着いて指導できるようになり、時間配分についても適切になってきた。
- ・児童については、どの学年の児童も学習に対する意欲が高く、挙手も積極的であった。その中の数人は発問に対し、適切な意見を述べ塾生が助けられたと思う場面もあった。
- ・今年度からの11月開塾のよさを生かし、令和3年4月からこれまでの担当学級から別の学年、学級での指導に変わった。校長先生の、来年度の採用に備え、いろいろな学年、学級を経験してもらいたいという思いも受けている。
- ・学習指導案については、研修センターの教授や学校と協議し、指導を受けたものであるため、指導案の内容についての指導はしないよう配慮した。

## 3. 養成塾生のカウンセリングも含めた対面による相談や指導

- ・対面による相談や指導については、毎週時間を設けた。(毎火曜日午後3時から) 時間設定は、学内の特別教育実習の授業開始の1時間30分前とした。これは、終了後特別教育実習の授業を受けられるタイミングであることと、実習校での授業研究が木曜日に実施されるため、授業づくりについての相談や助言が、最終確認として適時的であったことによる。
- ・相談は、学習指導案づくりの早期では、どの単元にしたらよいか。めあては適切か、等の相談があり、学習指導案は研修センターや学校での指導の下に行われるが、事前に助言していた。後期では、発問の適性、板書計画はどうか等のまさに直前に迷っていることに対する指導・助言が多かった。

- 対面による相談や指導についての必要性を強く感じたのは、授業づくりの相談において、始めは、「どうしたらよいか。」という相談が多かったが、後半は、「こうしたいが、どうでしょうか。」というように、塾生の成長が直接感じ取れたことである。
- その他、実習校での職員や管理職とのかかわりや、学校で指導されたことに対する不満等についても相談されることもあり、養成塾における研修を研修内容そのものに対する指導が主なものであるが、精神的な側面で支援していくことも、大事な役割であることを改めて感じた。

#### 4. 研修修了後のフォローについて

##### (1) 東京都教師養成塾におけるフォローについて

- ① 2～3 回程度の研修(学級経営の仕方や、児童理解等について)
- ② 養成塾の修了生として実習校へのボランティア活動参加の働きかけ

##### (2) 学内におけるフォローについて

学内においては、基本的には、

- ① 特別教育実習の授業において、教師としての基礎基本的な知識・技能についての指導を受けること。
- ② 対面による相談についても継続して行った。

その他には、10月の教員採用試験の合否によって、フォローの内容が違ってくるが、担当としてのかかわりは、以上である。

#### 5. これから求められる教師養成塾生の選抜と指導と支援の在り方について

##### (1) 教師養成塾生の選抜について

選抜は、今年度検討したように、東京都教育委員会が求める、東京都教師養成塾の指針に則り、新規採用教員のリーダーとなるに相応しいかどうか。新規採用までに、身に付けなければならない研修内容に、年間を通して終了できるか、等のしっかりとした信念をもつ学生の選抜が求められる。そうすると、いわゆる各教育委員会が実施している大学推薦者と同様かそれ以上の資質・能力を備えた学生を選抜する必要があると考えられる。

##### (2) 指導と支援の在り方について

指導については、今後の東京都教師養成塾が示す学内に求められる指導内容とともに変わっていくことが考えられるが、基本は、養成塾生候補者選考合格に向けた論作や面接選考等への指導・助言、特別教育実習による教師に求められる基礎的・基本的な知識や技能を身に付けさせること、等となる。また、支援については、定期的なカウンセリングも含めた対面による相談が重要になると考えられるが、塾生が多数となった場合は、担当者の数についても考える必要がある。いずれにせよ大学が送り出した学生が、研修修了までしっかりと学べるよう励ましたり、方向に迷いが生じたりした際には、進むべき道を示してやることも大事な役割であると考ええる。

##### (3) 今後の課題として

- 令和3年度の入塾希望者は0名であった。今後も採用倍率の低下により、採用を意識した入塾希望者は減少していくことが予想される。
- 塾生は今後の教員としての将来性について期待度が高いことは確かであるが、今入塾を希望しようとする学生にとって、それが入塾の動機となるかは疑問である。直近での塾生としての優位性が強調されない入塾希望者の増加には繋がらないのではないかと考える。
- 今年度の塾生の言葉として、「年度をまたいで実習があったことは、新たな経験としてよかったと思う。ただ、養成塾閉講後の実習校とのかかわり方については、継続してかわることについて、意義はあるが自身の立場が中途半端で、かわり方の難しさを感じた。」と述べていたように、養成塾閉講後の実習校とのかかわり方についても明確化する必要がある。

引用文献：

- 東京都教師養成塾 ―子供たちの夢をかなえる教師になる！―  
(第20期東京都教師養成塾募集案内より)

参考文献

- 東京都教育委員会第2次教育ビジョン  
(東京都教育委員会ホームページ)